

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度 第4回社会教育委員会議定例会		
事務局 (担当課)		生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286(直通)		
開催日時		令和2年2月12日(水)午後3時~5時		
開催場所		相模原市役所 本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	8人(生涯学習課長他7人)		
公開の可否		可	不可	一部不可
		傍聴者数		0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 議題 (1) 正副議長の選出について (2) 令和2年度相模原市社会教育関係団体への補助金の交付について (3) 各種委員会等への派遣について (4) 今後の研究調査について 2 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員、 は事務局の発言)

1 議題

(1) 正副議長の選出について

委員の互選により、議長に古矢委員、副議長に藤嶋委員が選出された。

(2) 令和2年度相模原市社会教育関係団体への補助金の交付について

事務局より教育委員会からの諮問について説明を行った後に協議し、承認された。

主な意見は次のとおり。

過去の補助金額の推移など、数字を比較できる資料があるとよい。

対象事業の成果物などを資料として添付すると判断しやすいと思う。

資料については、判断しやすいものとなるよう検討する。

(3) 各種委員会等への派遣について

各種委員会等への委員の派遣について協議し、次のとおり派遣することとなった。

- ・ あじさい大学運営委員会 小林委員
- ・ 市立図書館協議会 金子委員

(4) 今後の研究調査について

事務局より資料に基づき説明を行った後、協議した。

今後の研究調査のテーマ及び具体的な取組事例等について、各委員が検討し、事務局で集約することとした。

主な意見等は次のとおり。

報告書の考え方はいいと思うが、現場の状況とかい離がある部分もあるので、どのようにつないでいくのかを考える必要がある。

今回の報告書について、展開方法と生きた事例の記載が少なかったと考えており、今後の研究に当たっては、その点も踏まえて行っていきたい。

地域での活動を今後どのように行っていくのかということ議論していくのがよいのではないか。地域のリーダーの発掘などは、今後コミュニティ・スクールを進めていく中でも重要である。

報告書の内容を誰に向けて発信していくかを考える必要がある。子どもでも読みやすいものを作成するとよいのではないか。

報告書にある課題の解決策を今後話し合っていければよいと思う。

報告書のような指針がないと、具体的にどうしていくのかという手がかりが見つからないと思うので、まとめたことに敬意を表したい。社会教育委員の役割は教育委員会への提言であるが、一般の人に広めていくことも必要である。この報告書と教育振興計画とを合わせた中で、どのように具現化していくのかということが考えていければよいと思う。

行政への提言の4項目は、連動していると思う。公民館の職員体制が変わり、新たなサークルや活動が生まれにくくなっているが、そこを改善するだけでも変わってくると思う。

旧市域の公民館と津久井地域の公民館では、状況も大きく異なるので、同じ基準で取り扱うことは難しい。各公民館の状況を踏まえながら、取り組むことができる体制づくりが求められる。

熱心な委員がいる公民館は、講師などで呼ばれる側としてもやりやすい。委員の方が、自分たちの公民館という考えを持って取り組めるかが大事だと感じる。

この報告書をベースに、具体的な展開方法や生きた事例を収集しながら、子どもたちにも分かりやすいものとしていきたい。ホームページや社会教育関係団体への配布だけではなく、小学生の生徒会でも使えるようなレベルで考えていかないといけない。

ネットワーク型公民館への転換について、公民館は、各地域のものであるという認識もあり、相模原市全体でのあり方を考える必要がある。熱心な公民館の取組手法を、他の公民館で展開するための方法を検討することも必要ではないか。

公民館は、人との出会いや学び、つなぐという部分や地域性に合わせて地域の人が活躍するという点では、うまく回ってきた部分が多いと思うが、今後、若者たちに向けて公民館をどのようにしていくのかというのは課題と認識している。公民館活動を通じて、子どもたちの見本となるような活躍し、誠実に生きていく姿を見せることが必要と考える。報告書を指針として、どう具現化し、伝えていくのかを考えるべきではないか。

若者にとって、公民館は高齢者のものという固まったイメージがある。これを払しょくするためには、何をやるかというよりは、やっていることをどのように見せるかが大事ではないか。

座間市では公民館のことをコミュニティセンターと言っているが、名称のイメージも大きい。また、若い人を公民館事業に参加させるのは難しいが、実際に参加してみると興味を持つものも多い。

子ども向けというのは、大人の学びと表裏一体であり、大人の学びの背中をどう見せるのかということである。コーディネーターの育成も地域ごとで考え方があってと思うので、全体でやると現場のニーズと合わない場合もある。そういう意味で、各地域で公民館が果たす役割は重要である。

コミュニティ・スクールの動向などを考えると、地域と学校の連携は、今後さらに密になっていく。地域としては、子どもたちが減少していく中で、こうした動きを通じて、ある程度、地域に還流してもらいたい。

- それぞれ興味関心、活動実績が異なるので各委員が実践した事例や紹介したい事例を持ち寄り、それを元に次回テーマをしばってはどうか。

提言の4項目は、密接不可分なので、教育、学習といった視点を意識しながら、一体で検討する。

2 その他

事務局より、次回定例会の日程について説明を行った。

古矢議長のあいさつにより、会議を終了した。

以上

令和元年度 第4回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠
1	井上 一恵	相模原市立小学校長会		欠席
2	金子 友枝	相模原市文化協会		出席
3	中里 浩章	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
4	藤嶋 直司	相模原市公民館連絡協議会	副議長	出席
5	安西 信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
6	大橋 千景	虹のおはなし会		出席
7	若林 由美	一般社団法人星と虹色な子どもたち		出席
8	石川 利江	桜美林大学教授		出席
9	秦野 玲子	RE Learning代表		出席
10	古矢 鉄矢	北里研究所参与	議長	出席
11	小林 政美	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら		出席
12	大野 俊文	公募		出席
13	長沢 亜希子	公募		出席
14	三井 泰平	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク		出席

出席者 13名 欠席者 1名